

2) 困難な問題を抱える女性

ヒアリング調査にあたっては、困難な問題を抱える女性が置かれていた状況の把握や今後の支援策を検討するため、具体的に困難な問題の状況や現在の困りごと、求める支援等についてヒアリングしました。

なお、以下に掲載している各事例は、そのままの実例ではなく、聞き取った内容の趣旨を損なわないよう配慮しながら個人や支援関係機関等が特定されないよう複数の事例を組み合わせるなどして加工しています。

1. Dさん

【基本情報】

20 歳代 一人暮らし

未婚・子どもなし 会社員（正社員）

困難な問題の状況

父親がギャンブル依存で、家のお金だけでなく、会社のお金を使ってしまい、明日の生活もできないほどお金がなくなってしまうことがある。自分がアルバイトで稼いだお金も結構使われた。だから家をでた。今でもお金関係の話はストレスを感じる。また、昔のことを思い出して精神的に不安定になることもある。

支援につながったきっかけ

弁護士に相談したことはある。現在はたまに相談する程度。

現在の困りごとと相談先

何かあっても人に言いづらいことと、家を出て親とは連絡を取っていないため、今後のことを考えたときに不安になるがそれを一人で抱え込んでしまう。

支援であつたらよかったもの

支援や相談場所があること自体を知らなかったので知ることができる機会や場所。

※個人や支援関係機関等が特定されないよう複数の事例を組み合わせるなどして加工しています。

2. Eさん

【基本情報】

40 歳代 夫と二人暮らし

既婚・子どもなし パート

困難な問題の状況

小学生のときから父親からよく身体的虐待を受けていた。中学生のときには布団の中に入ってきて覆いかぶさってくるなどの性的虐待もあった。母親は機嫌がいいときは助けてくれることもあったが、放置されることも多かった。警察に相談しに行ったこともあったが、家庭内の事情だけ

らと言って何もしてくれなかった。警察から親に連絡がいき、そこからさらに虐待がひどくなった。その後、家を出て友人の家などを転々としていた。 薬は毎食・眠前に複数飲んでいいる。布団に入っても眠ることができず、眠剤を服用している。
現在の困りごとと相談先
体がつらくて、家事ができないことを主治医に相談している。
支援につながったきっかけ
死にたいという気持ちが生じたため、精神科を受診した。その後、支援団体とつながり、支援を受けている。
支援であつたらよかったもの
虐待、DV、性被害など、支援や対応する機関が分かれているため、話や相談をする場所、治療の場所、住居支援がひとつの輪になってつながって支援できるという。
その他意見
事情を加味して支援を受けることができたのでありがたかった。 支援団体では悩みを聞いてくれて、困りごとに対応してくれて大きな力になった。

※個人や支援関係機関等が特定されないよう複数の事例を組み合わせるなどして加工しています。

3. Fさん

【基本情報】
20歳代 施設入所中
未婚 子ども1人（未就学児） 作業所（半日 週3日）で就労し生活保護を受給している。

困難な問題の状況
知り合いから勧められてパパ活をしていた。それで望まぬ妊娠をしてしまった。気づいたときには中絶できる時期を過ぎてしまい、中絶できなかった。 相手からは私生活を監視されて、家族や友人と連絡できなくされた。 子どもが生まれてからは、子どもをつねったり叩いたりして泣かすことがあった。また、「子どもを殺す」と脅されることもあった。
現在の困りごとと相談先
子育てが辛いと思うことがある。 今いる施設の職員に相談し、辛いときは子どもを預かってもらったりしている。 子育て支援センターなどの同じぐらいの年の子どもとお母さんが集まっている場所に行って子育ての話をしたり聞いたりしている。
子どもについての困りごと
DVの影響が心配。まだ小さいのでどれだけ影響を受けているのかわからない。
支援につながったきっかけ

子どもへの暴力があったので、役所と児童相談センターに相談をしていた。いつでも逃げられるよう手続きを進めておいてくれた。子どもを殺すと脅されたため、逃げることを決心し、一時保護施設に入ってから、今の施設へ来た。

支援であつたらよかったもの

同じ悩みを持っていたり、同じようにつらい状況にある子と話す機会。相手が私の気持ちをわかってくれているというのを感じ、気持ち的に楽になる。
最初に相談した場所と今いる場所が違い、手続きなどに時間がかかったので、それが解消されるといい。

その他意見

パパ活をしてしまったこともあり、警察へ助けを求められなかった。こういった女性が助けを求められる場がないと感じている。
生活保護を受けるのはハードルが高いと思い込んでいた。